

B-99 衣生活における着装の実態 (第1報) 着用服種と重ね方
愛知淑徳短大○土田正子 安城学園女短大 倉橋久子 岐阜大 中野刀子
東海学園女短大 西條セツ 辻啓子 山田家政短大 篠美代子

目的 最近の衣生活は経済環境の向上にともない生活様式が変化するとともに、新しい繊維素材の開発や既製衣料のめざましい普及によって衣生活の多様化が進んでいる。そこで今回は若い女性を対象に着装の実態を把握することによって衣生活のあり方を分析し、そのなかから大学の被服学の一端である被服構成学および構成実習の方向づけをするとともに、内容の精選に対する資料を得たいと考えた。

方法

調査対象：愛知 三重 岐阜 3 県の女子短大生 859 名

調査時期：昭和 54 年 12 月

調査方法：集合調査法により、調査当日着用してきたものについて回答を求めた。

調査内容：①基礎調査（家庭の職業、家族構成、小遣い、休暇の利用方法、愛読している雑誌、日常買物をする情報源） ②着用順位と服種 ③最外層に着用している衣服のシルエットとイメージ。

結果 ①重ね枚数では 3 枚着用者が 97% と大多数である。②上衣の重ね方は 297 通りと多様であった。③下衣の重ね方は 89 通りで、スカート形式が 81.1%、ズボン形式は 18.6% であった。④シルエットでは、ナチュラルラインが一番多く、ストレートライン、チューブラインの順であった。⑤外衣のイメージでは、スカート形式、ズボン形式とも若々しく、ラフな感じが多かった。